



きらめき



学校HP



言葉の大切さ

～人の心は聞いた言葉で作られる～

校長 小川 潤也

前号では、「2学期になって新たな気持ちで目標に向かって頑張る」という内容で書きました。私たち教員と同じく子供たちには「リセット願望」があります。学期の変わり目などは特にそのリセット願望が強くなります。本校の廊下には子供たちの目標が書かれた用紙が掲示されています。この目標、ただ書いて終わりでは意味がありません。どうしたら、その目標に近づくか、達成できるかを考える必要があります。

さて、目標について、箱根駅伝の常連ともいえる青山学院大学の原晋監督は、著書の中で「目標を設定するときに気を付けたのは『目標を半歩先にする』ことです。…それがどんなに小さな目標でも、達成するのはうれしいものです。…成功体験は、成長を促す潤滑油です。…そこには、小さなところからほめ続ける。」と目標の大切さ、ほめる言葉の重要性を説いています。

確かに、人間誰もが、どんなことでも出来たらうれしいし、ほめられたらうれしいものです。そこが、目標に向かうパワーとなるといっても過言ではありません。私たち大人が意識しなければいけないことがこの原監督の言葉に詰まっているように感じました。

校内を回っていると、授業中に指名した児童に「よくわかったね」とか、掃除中に廊下を雑巾がけしている児童に「きれいになるよ、ありがとう」と教員が声をかけている姿を目にします。そうした何気ない児童への声掛けは、目標に向かう原動力となると考えます。継続していきたいです。

人の話す言葉には、大きな力があります。特に、私たち大人が、子供にかける言葉は、使い方によって、宝石より貴重な物にもその逆にもなります。右の言葉は、テレビなどにも多く出演している北原照久さんの作とされていますが、今は、多くの著名な方々が使っています。子供たちは、やさしく温かい言葉を聞くことで、やさしく温かい心を持つようになります。(もちろん、子供に正しい行動を教えるために、厳しくすることは

「人の身体は、食べたもので作られる」

「人の心は、聞いた言葉で作られる」

「人の未来は、話した言葉で作られる」

必要なこともあります)やる気が出るようにほめることで、目標に向かって頑張ろうという気持ちになります。私たち大人は、子供たちが、頑張ろうという心を持てるような温かい励ましの言葉をかけて、子供たちに聞かせ、自信がもてるようにしてあげたいものです。

【交通事故防止】

秋の全国交通安全運動の期間は過ぎましたが、日没も早くなる等、交通事故の心配は尽きません。引き続き、ご家庭での指導や地域の皆様の見守りをお願いいたします。



特に、放課後、暗くなってからの自転車の無灯火運転は危険です。絶対にしないようにご家庭でも指導してください。努力義務ではありますが、安全のためです。ヘルメットの着用をお声かけください。

【交通事故防止5つの行動】

もしかして（危険予測） とまる（一時停止） みる（安全確認）
まっ（安全確保） たしかめる（再確認）

【連合運動会】

9/26（木）連合運動会が長久保小学校を会場に実施されました。学校の代表として、5、6年生が参加しました。過日、体育館で壮行会が行われ、1年生～4年生から5・6年生に向けて温かいエールが送られました。5・6年生は、この応援を力に変えて全力で頑張りました。



【校長室より】

○9月28日（土）にPTA主催の除草作業が行われました。保護者、地域の皆様に多数ご協力いただきありがとうございました。お陰様で、とてもきれいになりました。また、学校応援団の方々には、日頃より除草にご協力いただいております。重ねて感謝申し上げます。

○先日、地域の方が来校され、ペットボトルキャップを持ってきてくださいました。以前この学校だよりで、「ペットボトルキャップを集めてワクチンへ」、という取り組みを見て、ご協力をいただきました。ありがとうございました。学校では常に集めています。大橋市民センター、ベーカリーパンプキンさんにも回収箱を置かせていただきました。ご家庭にありましたらご協力をよろしくお願いいたします。

○児童が遅刻して登校の際は、必ず各クラスの教室にお立ち寄りいただき、児童を直接担任に引き渡していただきますようお願いいたします。また、早退の際も同様に、各教室にて担任から保護者の方に引き渡しをさせていただきます。ご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。